

垂木をデザインした内側

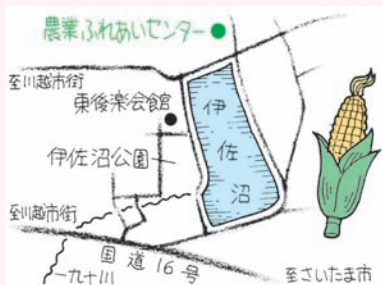
観光客の方が、博物館や美術館で見た作品の感想を話しながら、バスを待っていました。垂木を模した屋根の内側に気づき、「しゃれているわね」。遊び心のあるデザインにも、会話が弾んでいました。

博物館と美術館に面した通りに、休憩ができるバス待合所があります。しつこい壁をイメージし、白を基調とした黒色の石張りの柱は、蔵造り商家を思わせるデザインです。銅版ぶきの緑色かかった屋根は、大正時代に建てられた洋館建築の特徴であり、一番街に残る建物でも見ることが出来ます。アーチ形の屋根は、川越城本丸御殿（現在、保存修理中）の玄関の唐破風の曲線を模しています。一つの建造物の中に、これだけの要素を持ちつつも、通りの向かい側にある、博物館や美術館とも調和が取れています。観光客の方が、博物館や美術館で見た作品の感想を話しながら、バスを待っていました。垂木を模した屋根の内側に気づき、「しゃれているわね」。遊び心のあるデザインにも、会話が弾んでいました。

どんぐり

編集後記

農業ふれあいセンターで行われたトウモロコシの収穫体験を取材しました。汗ばむほどの暑さの中、80組200人ほどの家族が収穫を楽しみました▶親子で力を合わせてもぎ取ったり、背丈よりも高い茎に分け入り、探検を楽しんだりする子もいました。品種名は、ゴールドラッシュ。取れたては、やわらかく、生で食べられるほど▶子供たちに、味を聞いてみると、「甘くておいしい」と、にっこり。自分で収穫した、自慢のトウモロコシを見せてくれました。



表紙の地図



巨峰

市内の農産物で、意外に知られていないのが巨峰です。静岡県の大井上康おののうえやすしという研究者が開発し、的場地区の農業従事者



が第二次世界大戦後、川越に広めました。現在では、主に霞ヶ関・大東・福原地区で栽培されています。春に、花びらのない緑色の小さな花(写真)が咲き、ほのかに甘い香りがします。5月には小さな実が付きはじめ、8月中旬から9月ごろにかけて収穫されます。害虫などを防ぐため、袋がけなど多くの作業が必要です。市内での栽培面積は少なく、川越産の巨峰は、「幻の巨峰」と呼ばれています。

おしゃべり倶楽部

植物あらかると

244